Ⅰ　調査の概要

1　調査目的

本調査は「人権擁護宣言都市」にふさわしい人権が尊重されるまちづくりを推進するため、市民の人権に関する意識の現状を把握し、今後の人権教育・啓発施策の方向性を明らかにすることを目的に実施した。

2　調査項目

（1）　人権に関する考え方について
（2）　自分自身に関することについて
（3）　同和問題（部落差別）について
（4）　女性の人権について
（5）　こどもの人権について
（6）　障害者（児）の人権について
（7）　高齢者の人権について
（8）　日本に住む外国にルーツのある人の人権について
（9）　様々な人権について
（10）　ダイバーシティについて
（11）　人権問題の啓発活動について
（12）　あなた自身について

3　調査設計

（1）　調査地域　　堺市内全域
（2）　調査対象　　市内在住の16歳以上の男女
（3）　標本数　　4,000人
（4）　抽出方法　　各区の人口比率に合わせ住民基本台帳から無作為抽出
（5）　調査方法　　質問紙の郵送及び回収、並びにＷＥＢによる調査の併用
　　（調査期間中に全調査対象者にお礼状はがきを送付）
（6）　調査期間　　令和７年８月７日（木）から８月29日（金）

4　回収結果

サンプル数	回収数	無効回答数	有効回答数	有効回収率
4,000	1,446	8	1,438	36.0%

※無効回答数：白票、基本属性（問37～問40）または意見・要望欄（自由記述）のみ回答は集計対象外とした。

性年齢別（性別の「その他」及び「無回答」を除く）の回収数は、以下のとおりであった。

【回答者数（16歳以上）】

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	計
全体	43	114	139	187	269	233	271	160	22	1,438
男性	23	47	50	77	120	101	119	77	2	616
女性	20	66	89	109	147	132	151	81	3	798

5　信頼区間

本調査は標本調査（層化無作為抽出）であり、今回得られた結果から、堺市全体としての意見を推測することができる。推測にあたって回答割合に応じて発生する標本誤差（信頼区間）は次のとおりである。（性別の「その他」及び「無回答」、年齢別の「無回答」は数表から除いているため、合計は総数と一致しない。）

たとえば、問２-ア「権利ばかり主張して、がまんすることのできない者が増えている」で、「そう思う」と回答した人の割合は23.1%であるが、信頼区間の1/2幅をみると、値が最も近いのは、25%または75%の欄であり、信頼区間1/2幅は“±2.2”となっている。

このことから、「そう思う」と答えた人の母集団値は、信頼度95%とした場合（同じ調査を100回行った場合、95回まで同じ結果になるという精度）、23.1%±2.2%の間であると推定できる。

【主要な%における信頼区間の1/2幅】

	p(%) / n	5 95	10 90	15 85	20 80	25 75	30 70	35 65	40 60	45 55	50 50
総 数	1,438	±1.1	±1.5	±1.8	±2.1	±2.2	±2.4	±2.5	±2.5	±2.6	±2.6
＜性別＞											
男性	616	±1.7	±2.4	±2.8	±3.2	±3.4	±3.6	±3.8	±3.9	±3.9	±3.9
女性	798	±1.5	±2.1	±2.5	±2.8	±3.0	±3.2	±3.3	±3.4	±3.4	±3.5
＜年齢別＞											
20歳未満	43	±6.5	±9.0	±10.7	±12.0	±12.9	±13.7	±14.3	±14.6	±14.9	±14.9
20歳代	114	±4.0	±5.5	±6.6	±7.3	±7.9	±8.4	±8.8	±9.0	±9.1	±9.2
30歳代	139	±3.6	±5.0	±5.9	±6.6	±7.2	±7.6	±7.9	±8.1	±8.3	±8.3
40歳代	187	±3.1	±4.3	±5.1	±5.7	±6.2	±6.6	±6.8	±7.0	±7.1	±7.2
50歳代	269	±2.6	±3.6	±4.3	±4.8	±5.2	±5.5	±5.7	±5.9	±5.9	±6.0
60歳代	233	±2.8	±3.9	±4.6	±5.1	±5.6	±5.9	±6.1	±6.3	±6.4	±6.4
70歳代	271	±2.6	±3.6	±4.3	±4.8	±5.2	±5.5	±5.7	±5.8	±5.9	±6.0
80歳以上	160	±3.4	±4.6	±5.5	±6.2	±6.7	±7.1	±7.4	±7.6	±7.7	±7.7

なお、調査結果の標本誤差は下記の計算式により算出した（ただし、信頼度95%とする）。

$$\varepsilon = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

ε＝標本誤差
N＝母集団（16歳以上の堺市民 709,397人(令和７年６月末現在)）
n＝回答者総数（1,438人）
P＝回答比率

6　調査の監修

下記の調査項目について、それぞれの専門的観点から意見をいただき、調査結果のまとめを作成していただいた。

調査項目	監修者
人権問題（同和問題（部落差別）関連の調査項目を除く）について	大阪公立大学　現代システム科学域教育福祉学類 教授　西田　芳正
同和問題（部落差別）の調査項目について	関西大学　社会学部社会学専攻 教授　内田　龍史

7　報告書の見方

・集計結果はすべて、小数点第２位を四捨五入しており、比率の合計が100.0%にならないことがある。
・複数回答を依頼した質問では、集計結果の合計は100%を超える。また、本文中、表やグラフにMA%の表示がある場合、複数回答を依頼した質問である。
・回答比率（%）は、その質問の回答者数を基数（N=Number case)、または合計件数（複数回答の場合における延べ回答数）として算出した。
・性別の選択肢に「その他」を用意したが、回答者が４人と少なく、性別による集計や分析の際には、その回答について掲載を行っていない。
・コンピューター入力の都合上、図表において回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。
・本報告書において、第７回堺市人権意識調査（以下、グラフ内：2015（平成27）年度、本文中：前々回調査）及び第８回堺市人権意識調査（以下、グラフ内：2020（令和２）年度、本文中：前回調査）との経年比較を行っている質問がある。その概要は次のページのとおりである。

・第７回堺市人権意識調査

調査地域：堺市内全域

調査対象：市内在住の16歳以上の男女

標 本 数：3,000人（有効回収率43.1%）

抽出方法：各区の人口比率に合わせ住民基本台帳から無作為抽出

調査方法:質問紙による郵送調査法(調査期間中に全調査対象者にお礼状はがきを送付)

調査期間：平成27年11月16日から12月７日

・第８回堺市人権意識調査

調査地域：堺市内全域

調査対象：市内在住の16歳以上の男女

標 本 数：3,000人（有効回収率44.5%）

抽出方法：各区の人口比率に合わせ住民基本台帳から無作為抽出

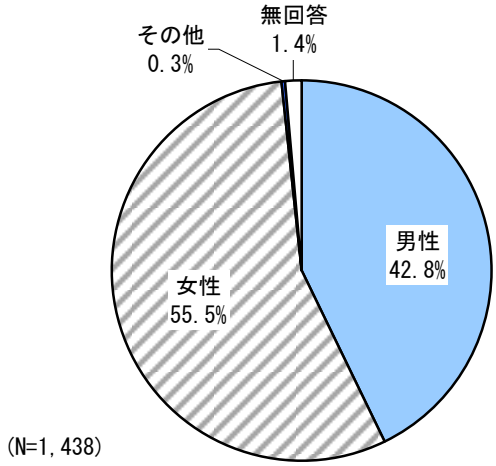
調査方法:質問紙による郵送調査法(調査期間中に全調査対象者にお礼状はがきを送付)

調査期間：令和２年11月16日から12月４日

8　回答者の基本属性

（1）性別

【属性図表1-1　性別（16歳以上）】

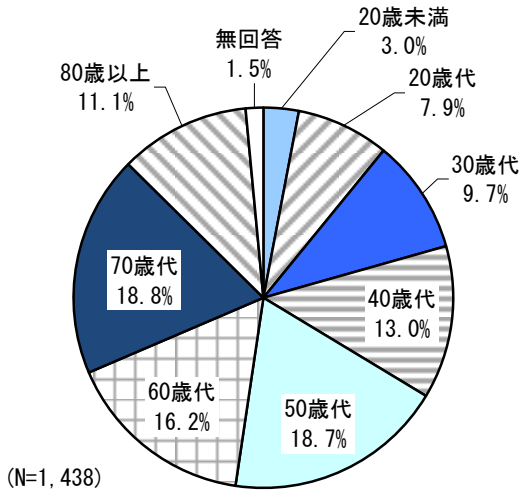


回答者（16歳以上）の性別をみると、「女性」が55.5%に対し「男性」が42.8%で、女性の回答率が高い。（属性図表1-1）

令和７年７月末時点の住民基本台帳による堺市全体（16歳以上）の性別構成は「女性」が52.7%、「男性」が47.3%で、回答者の性別構成は、堺市全体の性別構成と比較して、女性のほうが高くなっている。

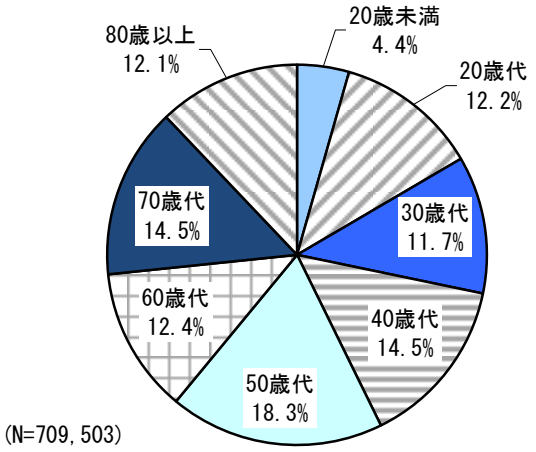
（2）年齢

【属性図表1-2　年齢（16歳以上）】



回答者（16歳以上）の年齢をみると、「70歳代」が18.8%で最も多く、次いで「50歳代」が18.7%、「60歳代」が16.2%、「40歳代」が13.0%、「80歳以上」が11.1%となっている。（属性図表1-2）

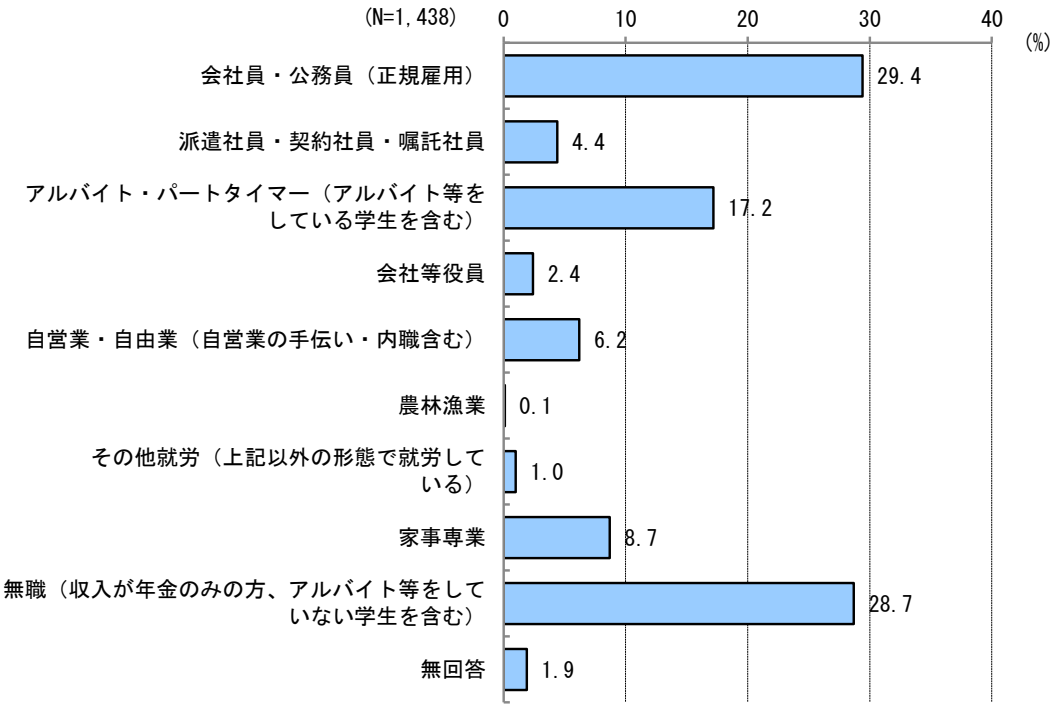
【属性図表1-2-1　年齢　堺市全体（16歳以上）】



令和７年７月末時点の住民基本台帳による堺市全体（16歳以上）の年齢構成をみると、「20歳未満」が4.4%、「20歳代」が12.2%、「30歳代」が11.7%、「40歳代」が14.5%、「50歳代」が18.3%、「60歳代」が12.4%、「70歳代」が14.5%、「80歳以上」が12.1%であり、回答者の年齢構成は、堺市全体の年齢構成と比較して、60～70歳代で高く、40歳代以下で低くなっている。（属性図表1-2-1）

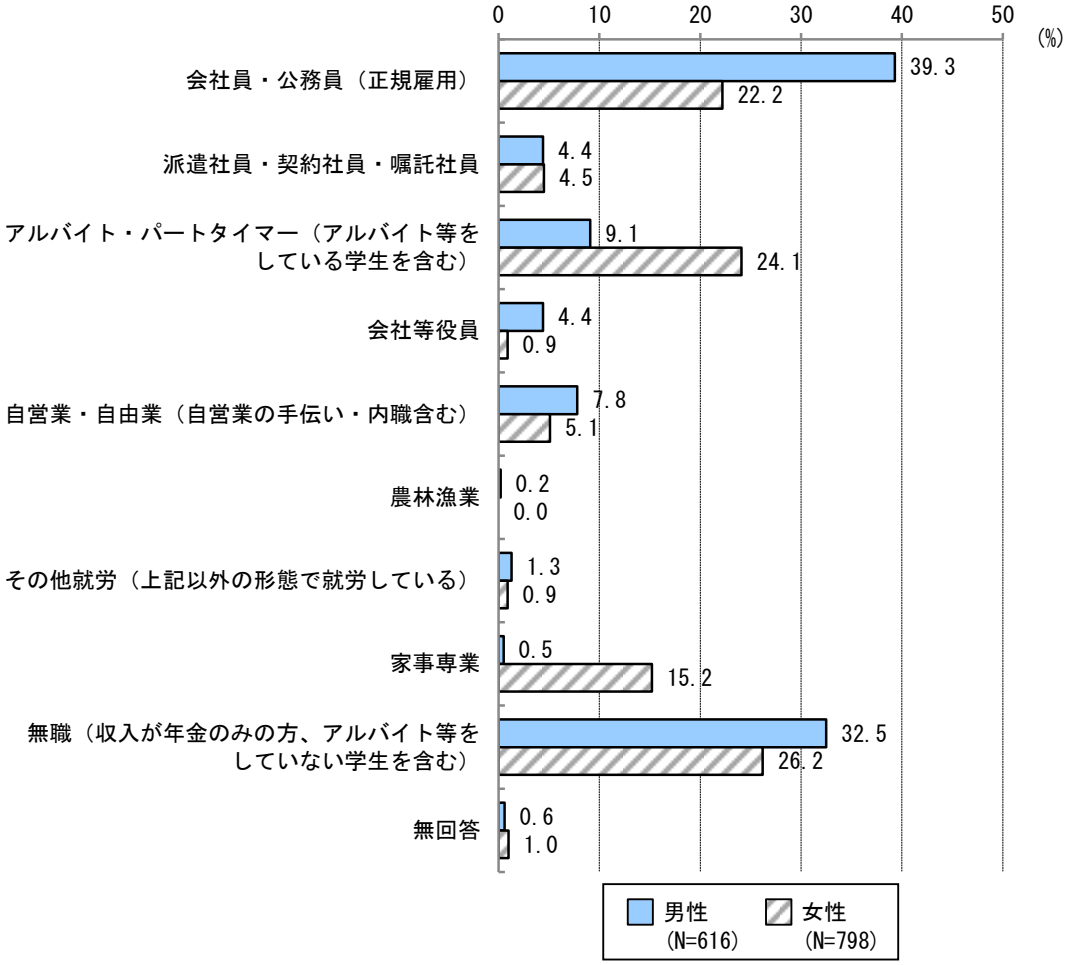
（３）職業

【属性図表1-3　職業】



回答者（16歳以上）の職業をみると、「会社員・公務員（正規雇用）」が29.4%で最も多く、次いで「無職（収入が年金のみの方、アルバイト等をしていない学生を含む）」が28.7%、「アルバイト・パートタイマー（アルバイト等をしている学生を含む）」が17.2%、「家事専業」が8.7%となっている。（属性図表1-3）

【属性図表1-3-1　性別　職業】

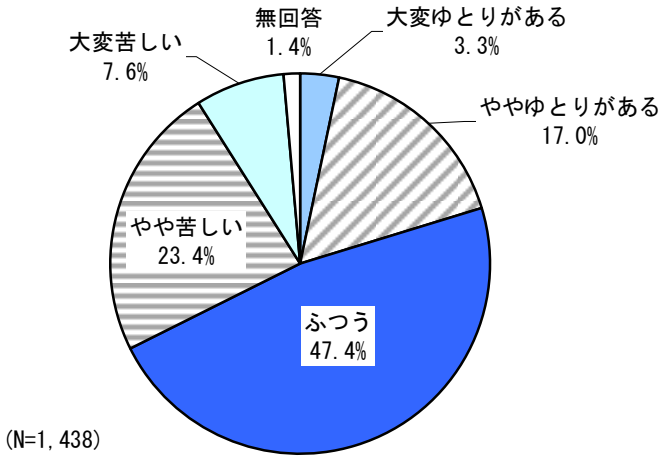


性別でみると、男性は「会社員・公務員（正規雇用）」が39.3%で最も多く、次いで「無職（収入が年金のみの方、アルバイト等をしていない学生を含む）」が32.5%となっている。

女性は「無職（収入が年金のみの方、アルバイト等をしていない学生を含む）」が26.2%で最も多く、次いで「アルバイト・パートタイマー（アルバイト等をしている学生を含む）」が24.1%となっている。（属性図表1-3-1）

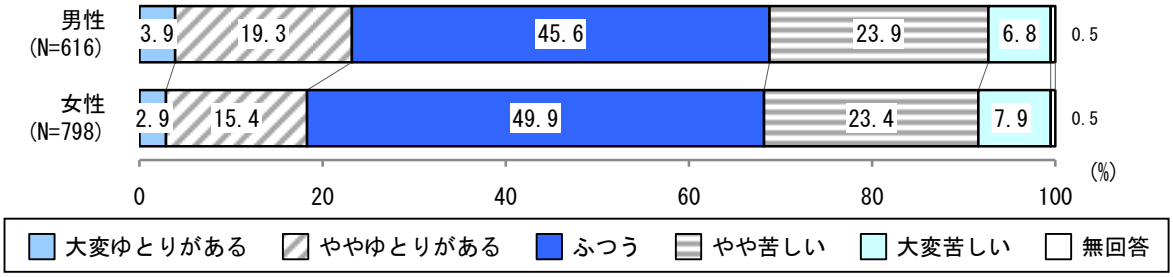
（4）暮らし向き

【属性図表1-4　暮らし向き】



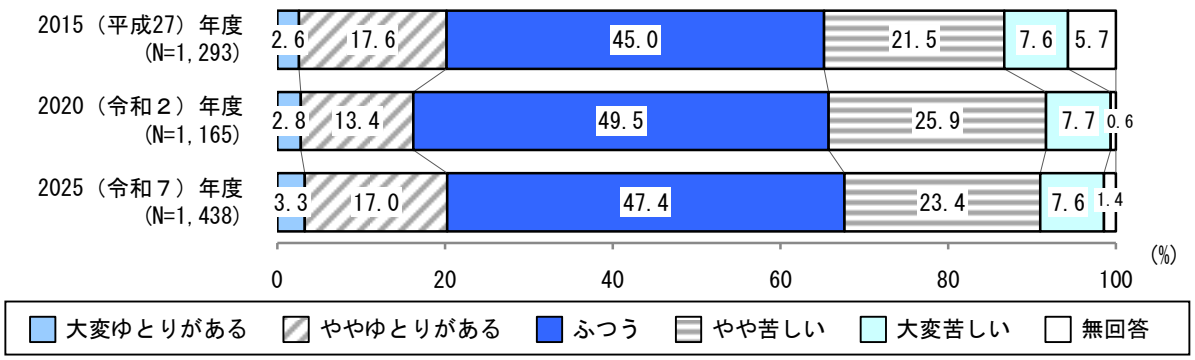
回答者（16歳以上）の暮らし向きをみると、「ふつう」が47.4%で最も多く、次いで「やや苦しい」が23.4%、「ややゆとりがある」が17.0%、「大変苦しい」が7.6%となっている。「やや苦しい」と「大変苦しい」をあわせた『苦しい』の割合は31.0%となっている。（属性図表1-4）

【属性図表1-4-1　性別　暮らし向き】



性別でみると、「大変ゆとりがある」と「ややゆとりがある」の割合がともに女性より男性のほうが高くなっている。（属性図表1-4-1）

【属性図表1-4-2　経年比較　暮らし向き】



経年比較でみると、「やや苦しい」と「大変苦しい」の割合は前回調査と比べて減少している。（属性図表1-4-2）